

第2期アクションプラン（2021年度・3年目）

I. 排水管清掃技術向上のための方策 担当：事業部（技術委員会）

各企業が、排水管清掃についての適切な知識を持ち、更なる技術力を向上させ、ビジネスの中で自社の強みや創造性を生かし、より付加価値の高いサービスを提供して、収益性を高めることが重要である。そこで、更なる技術力向上を図れるよう教育体制及び資格制度の確立を目指す

1、技術講習（資格制度）

排水管清掃業の信頼性確立に向け仕様の標準化を推進し公的機関認定の資格にするべく活動する

	2021年度	2022年度
プラン	資格講習・再講習会を支部主体で実施する。経費を抑えることで既存の開催地（回）に留まらず、要望のある支部での開催を目指す。	既存及び新規開催地での資格講習の継続を行う。
報告	実技講習で使用する資材の新設、機材についてワイヤ・洗浄ホース・CCDカメラの変更を行った。 再講習のオンライン化を実施した。 新規講習についても実技講習を充実させる為、座学を自宅学習とし2日間のプログラム改定を検討した。	

2、研修会等の開催

法改正や技術革新に伴う新技術に対応するべく研修会を実施する

	2021年度	2022年度
プラン	民間企業・官公庁から講師を招き研修会を行う。	前年度の研修会を発展させ関係各所での講習会に積極的に応じる。技術革新に伴う講習会についても企画し実行する。
報告	引き続き委員会冒頭に賛助会員ほか新システム提案会社を招致しプレゼンを受けた。 タブレットを利用した現場管理～報告書業務作成システムなどニュースタandard化へ向けた商品の精査を行った。 国民生活センターにおいて消費者相談に対するオペレーターへの講習会を開催した。 マンション管理業協会において令和3年度マンション維持修繕技術専門課程研修に講師を派遣した。	

3、人材育成

各地域において排水管清掃技術の指導者となるべき人材を育成するための活動を行う

	2021年度	2022年度
プラン	資格講習の新開催地選定に合わせ、支部より擁立した講師候補の育成を図る。	現講師・新講師の配置転換等を行い、各講師のスキルアップと欠員時の補填をスムーズに行えるようにする。
報告	支部擁立の資格講習新講師に、講習会当日を利用し教育を行った。 既存・新規講師ともに、新たなプログラム・新機材に対して対応すべく教育を行った。	

4、安全衛生

労働安全に対する啓蒙普及を行う

	2021年度	2022年度
プラン	教育用動画テキストの提供をスタートする。安全大会の継続をサポートし、支部統括・支部活性化委員会へ引き継ぐ。	関係法令の変化に注視し、素材のアップデートを視野に入れる。
報告	教育用動画テキストの内容検討・仮撮影を行い、ニュースタandardにマッチする仕様・装備・作法を取り入れる検討を行った。	

5、技術相談

清掃技術の様々な問題に対応するべく担当者を置き会員の技術上の問題にタイムリーに応える窓口の運営

	2021年度	2022年度
プラン	新技術・工法についても研修会を経て習得し、会員企業からの問い合わせに対応する。	相談案件を纏め、会員向けにQ&Aを発行・配信する。
報告	タブレットを利用して現場・顧客管理をクラウドで共有するシステム技術について商品紹介を受けた。実現場以外の管理技術の知見を得たことで、会員企業での人材不足解消になり得るシステム化の検討をした。	

6、新たなニーズの調査

排水管の清掃という枠にとらわれることなく管の清掃という大きなカテゴリーの中で社会的なニーズを探る

	2021年度	2022年度
プラン	集合住宅向けの知識・技術の偏りから、施設・ビルの保守についても調査を進め、新たなニーズに対応するべく体制を作る。	施設・ビルの保守に精通した新委員の加入を進め、更なる問題点等を模索し、協会スタンダードを確立するべく勤しむ。
報告	第49回大会で「集合住宅の共用排水管閉塞事故に対する保守の改善方法」をテーマに事例報告を行い、排水管の定期的な点検・診断で長寿命化を見据えた保守の重要性を主張した。	

7、新技術の確立

既存の技術にとらわれることなく新たな技術を模索する

	2021年度	2022年度
プラン	普及し始める小口径サイフォン排水システムの維持管理に着目し検証する。	小口径サイフォン排水システムに対応可能な洗浄方法の実験・検証を進める。
報告	CCDカメラの実用について、挿入性・耐久性・コストについてメーカーと協議し開発の提案をした。給排水設備研究会発表の拡張排水システム(機械式・サイフォン式・【非水封式・自封式】トラップ)について情報を得た。保守について脆弱な装置と見られるため、メンテナンスについて意見を組み入れられるよう関わり続けていく。	

	2021年度	2022年度
プラン	管理部と連携し、厚労省担当部署への定期訪問を継続する。	東京都以外の各都道府県の保健所等の講習会へも講師を派遣すべく、支部と共同し積極的に展開する。
報告	コロナ禍で行政担当者への訪問は控えているが、従事者研修講師の依頼や人事異動の際に協会活動の重要性を理解してもらうよう資料を提供している。	

Ⅱ. 排水管清掃業の地位向上のための取り組み 担当：管理部（総務・広報委員会）

業界の専門団体として、行政に対して建築物の環境衛生面、労働安全面等に関する提言を行い、業界の地位向上のため会員企業の声を行政の政策に反映し、会員企業が活力ある企業活動を行うための基盤づくりを推進する

1、管清掃業の社会的認知度を高める活動

管清掃業としての必要性を社会的に認知させることにより高い付加価値を創出する

	2021年度	2022年度
プラン	前年までの事業の継続及び進捗フォロー	事業の継続及び進捗フォロー
報告	ホームページに会員限定ページを作成し、動画や共同購買、関連情報の提供を開始した。	

2、協会のブランディングのための取り組み

会員企業の競合との差別化や調達力の向上を図るべく全国管洗浄協会としてブランディングに取り組む

	2021年度	2022年度
プラン	ブランドイメージを波及すべく活動	前年度の活動を検証しつつ活動継続
報告	SDGsの取り組みを会員が推進することで企業のイメージアップにつながる連携づくりを模索した。	

3、社会貢献事業への取り組み

業界として社会的責任を果たすべく積極的に社会貢献事業を推進していく

	2021年度	2022年度
プラン	社会貢献事業へ向けた準備	社会貢献事業の実施
報告	SDGsについて、協会の取り組み目標を明確にして啓蒙するとともにバッジを作成し原価で販売。会員各自の取り組み推進を促した。	

4、他業種との交流

他業種の団体と交流していくことで新たな技術の蓄積や事業機会の創出など相乗効果の創出をはかる

	2021年度	2022年度
プラン	学生や研究者との意見交換会の開催	前年までの事業の継続及び進捗フォロー
報告	(一社) マンション管理業協会の研修会に講師派遣が決まり、発注者側に排水管清掃の重要性を訴える場を作った。	

5、人材確保に対する支援

会員企業の安定した人材確保に対して研究し支援していく

	2021年度	2022年度
プラン	成功事例の共有を推進	更なる可能性の検討及び会員企業へPR
報告	青年部の設立は、コロナ禍の状況を見ながら、対象者に声かけをしながら準備を進めた。	

Ⅲ. 組織・運営力の強化 担当：支部統括部（支部活性化委員会）

（一社）全国管洗浄協会が業界を代表する団体として、会員数は業界の声を反映する指標であり、その土台として強固な組織・財政基盤を築いていく。

1、組織・財政基盤強化への取り組み

2024年までに正会員300社を目指す

	2021年度	2022年度
プラン	入会キャンペーンを6月から8月まで実施する。会員数を15増の255社を270社にする。	入会キャンペーンを6月から8月まで実施する。会員数を15社増の270社を285社にする。
報告	入会キャンペーンは協会創立40周年記念事業として5月から2月まで実施。12社の入会を勝ちとり、次年度への取り組みに弾みをつけた。	

2、会員サービスの充実

ニーズにあった会員サービスの実施や会員相互の親睦を図り協会員の定着率を高める

	2021年度	2022年度
プラン	1年目の実施を継続する。	定着率、退会者数を理事会に報告を行い検証する。
報告	カンツールや積水化学工業の協力により首都圏で工場見学会を実施し、最新情報を学んだ。	

3、情報発信

様々な媒体を通して業界に関する新しい情報を発信する

	2021年度	2022年度
プラン	運用開始	評価及び検証
報告	定時総会で支部ごとに活動状況や地域情報などを紹介する情報交換の時間を設けることを決め、初めに東京支部が行うことを決定した。	

4、中期ビジョン推進のための協会組織・執行体制の確立

時代の環境変化に即した柔軟かつ効果的な事業を行えるよう委員会や支部編成のあり方を検討し、機動的な事務局体制の確立を図る

	2021年度	2022年度
プラン	中期ビジョン推進のための協会組織・執行体制を理事会に提案	理事会決定を踏まえた組織・体制の確立準備または修正
報告	支部役員選任の権限を支部長に一括することや、副支部長の役割を明記するなどの支部規程の改正を行った。	

5、支部活動の活性化

魅力的で組織的な支部事業を企画立案し水平展開していく

	2021年度	2022年度
プラン	各支部における事業の進捗状況フォロー	前年度事業の検証・評価及び継続
報告	SDGsセミナーの開催を企画・検討したがコロナ禍で開催延期となり、次年度の継続事業とした。	

IV.委員会活動の活性化

アクションプランの推進と更なる会員のメリットとなる活動の計画と実行を推進していく

技術委員会

	2021年度	2022年度
プラン	現状、集合住宅や住宅に偏った情報・活動内容であることから、施設保守にも目を向け大型施設や公共施設・雑居ビル等にも視野を広げ会員企業の利益に繋がるべく、管理者に対し提言を進める。	移動委員会を開催し、各支部特有の取り組みや問題点を共に検討する。
報告	資格講習のオンライン化、プログラム変更による実技講習枠拡大の検討を行った。 第49回研究集会において、定期清掃の不確実分野となる共用管閉塞に対する保守の在り方について発表した。 施設保守についての拡充は次年度に持ち越す。	

総務委員会

	2021年度	2022年度
プラン	視察研修の実施	会員企業の協会に対するニーズについて調査
報告	メーカーの協力を得て工場見学会を2回実施し、来年度に向けて各地で開催する見学会について検討した。	

広報委員会

	2021年度	2022年度
プラン	前年度の検討結果を踏まえて実施	広報効果について検証
報告	全管協ニュースで協会創立40周年企画（協会の歩み、鼎談、対談）を掲載したほか、新企画やホームページの内容を充実させる取り組みを行った。	

支部活性化委員会

	2021年度	2022年度
プラン	3年間の総括で委員会を中心にさらに支部間の連携を深める。	4年間の総括で委員会を中心にさらに支部間の連携を深める。
報告	工場見学会を首都圏で開催し、3支部間の連携を深めたが、今後、水平展開するよう検討を重ねる。	

認定委員会(優良事業者)

	2021年度	2022年度
プラン	見学会招待者の意見取りまとめ。10社認定を目指す。	取りまとめた意見の検証と評価
報告	コロナ禍により資格講習に招待することはできなかったが、3社の申請があり認定した。	